

【様式1】 令和2年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	郡上市	学校名	郡上市立大和南小学校		
校長名	寺井 佳代子	対象学年	全校児童	人数	100人
項目 該当する項目に ○をつける	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼保園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し、取り組んだ実践			
活動のねらい	○地域の人・歴史・自然・文化を知り、よさに気付き、それらにかかわる人々の思いや生き方に触れることを通して、地域への愛着と誇りをもつことができる。 ○地域と自分達との関わりを考えたり、今後の地域について考えたりすることができる。				

活動の特色・児童生徒の変容など

<短歌教室>

【短歌】 全校児童

古今伝授の里づくりの一環として、週1回、帯時間に短歌づくり等を行っている。また、年間2回古今里子の時間（生活科及び総合的な学習の時間）に地域の短歌会の方を講師に短歌教室を行った。1回目は6月に行い、学年に応じた短歌の作り方を学んだ。2回目の11月では、これまでの短歌の取組を振り返り、さらにステップアップするための工夫について学び、よりよい作品作りに挑戦している。また、6月には人権七夕集会で親子共に、11月には人権教育週間と関わって児童が、ぽかぽか短歌づくりを行った。今年度はコロナ禍ではあったが、長良川鉄道の駅に児童の短歌を掲示する短歌コーナーの設置、学校便りでの短歌紹介等を通し、大和町が古今伝授の里であることを発信できた。また、昨年までと同様、全国のいくつもの短歌大会に応募し、よい評価を得ている。



<南っ子宣言>

こうした取組を通して、自分の思いを言葉に表すことのよさを

実感し、子どもらしい素直な感性を伸ばすことができた。また、昨年度に引き続き、児童会の「南っ子宣言」にある「大和町の短歌を受け継ぎ親しみます。」を具現しようと、児童会計画委員会主催の異年齢集団を生かした「南小全校短歌大会」を開いた。また、6年生は、町内の大和北小学校とTV会議システムによる短歌交流も行った。

<仕舞発表会>

【能】 5・6年生

毎年5月に行われる大和南公民館の「古今伝授の里春祭り」では6年生が謡を披露する。また、5、6年生は10年前から8月7日に行われる地域の明建神社「薪能くるす桜」に出演している。この発表は地域の方から喜ばれており、「短歌と能の学校」として認められた。コロナ禍で今年度発表は中止となったが、引き続き大和南公民館の支援で、京都から能楽師味方團氏を招き、古今里子の時間（総合的な学習の時間）を使って指導していただき練習に励み、その成果を5、6年生保護者と来年度能を受け継ぐ4年生児童を対象に「仕舞発表会」を行い披露した。児童が能に関わることで、地域の伝統文化と疎遠になりがちな保護者の意識を地域に向けることにつながった。



こうした活動を通して、児童は地域の方から認められ、自信と自己有用感が育った。また、能を行うことが、「古今伝授の里」づくりにつながっていることがわかり、伝統を引き継ぐ思いを強くすることができた。

<特別支援学校児童の手紙>

【交流活動】3年生

3年生は、校区にある郡上特別支援学校との交流を行っている。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で、直接交流ではなく、自分たちの自己紹介や、学校紹介を書いたものをお互いに交流する間接交流をしている。

今後は、オンラインでの交流や、動画を使つての交流を計画している。

この取組を通して、子ども達はまず新しい仲間ができたことを喜び、自分たちのことを知ってもらおう、相手のことを知りたいという願いで活動した。こうした活動によって、相手の障がいだけを見るのではなく、障がいはその人の一部であることに気付いていった。今後の活動を通して、更に子どもどうしの理解を深め、地域で一緒に学ぶ仲間であるという心を育てていく。



【清流長良川】4年生

7月には、高鷲の分水嶺公園へ行き、地域の講師の方に長良川の始まりと高鷲地域の自然や山の役割について話を聞いた。その中で長良川のきれいな水は、山が作っていることを知り、川と山の関係に気付くことができた。また、「清流長良川あゆパーク」へ行き、長良川の生態調査を行い、きれいな水に住む水生昆虫を捕まえたり、長良川の魚について話を聞いたりして長良川の生き物について学んだ。また、岐阜県は山や木々が多い県であること、50年のサイクルで伐採、植林をして山を育てていることを学んだ。その後、もみじの植林体験をした。きれいな川を作るためには山を大切にしなければいけないことを分水嶺見学とあゆパークでの体験を通して実感することができた。

<清流長良川あゆパーク>



9月にはヤナ場見学を行い、鮎の一生について学んだり、長良川の鮎は天皇にも献上しており、大変価値があることを知ったりすることができた。また、鮎のつかみ取り体験をしたり、鮎の塩焼きをいただいたりして、鮎にかかわる地域の文化や食について学ぶことができた。

こうした川や山に関わる活動を通して、児童は、自分たちの住む地域の自然の素晴らしさを体験することができた。そして、自然と人が関わり合って生きていくこと、自然を守っていこうとする心が育ってきている。

【郡上かるた】全校児童

1・2年生は、生活科や休み時間に「郡上かるた」に親しんでいる。また、4～6年生は、地域講師を招いた「かるたクラブ」の中でも「郡上かるた」に親しんでいる。「郡上かるた」は郡上の様々な文化や自然をかるたにしたもので、子ども達はかるた取りをして遊びながら、郡上のそれらを学んでいる。読み札や絵を覚えている子どもも多くいて、郡上のよさを知り、自分たちのふるさとの文化や自然を大切にしていこうという心が育っている。尚、PTAも「親子かるた大会」を予定していたが、今年度は中止となった。

<かるたクラブ>

